
活動報告

ACTIVITY REPORT

歴代総理大臣に対するインターネット世論の反応 Online Reactions to Former Prime Ministers in Japan

釜田美海¹

芳野日菜莉¹

小川蘭¹

小河明日香¹

中條美和²

Abstract

In recent years, functions such as comments and retweets on social media have made it possible to observe various public reactions and evaluations expressed online. This paper explores the online activities such as likes and replies on YouTube videos related to eleven Japanese Prime Ministers to investigate how former Prime Ministers are evaluated in online spaces. The study utilizes the YouTube Data API and Perspective API to measure the toxicity of comments and applies multiple regression analysis and wordcloud to explore factors affecting toxicity. The results show that for some Prime Ministers, higher toxicity in comments leads to more likes, while in other cases the opposite or different patterns appear.

¹ 津田塾大学総合政策学部総合政策学科4年、Miu Kamata, Hinari Yoshino, Ran Ogawa, and Asuka Ogawa, 4th Year, Department of Policy Studies, College of Policy Studies, Tsuda University,

² 津田塾大学総合政策学部総合政策学科准教授、Miwa Nakajo, Associate Professor at Department of Policy Studies, College of Policy Studies, Tsuda University.

1. はじめに

近年、インターネットの発展・普及により、過去の総理大臣の演説や答弁、記者会見などの映像を手軽に視聴できるようになった。YouTube や各種ニュースサイトを通じて、かつての政治家の言動を現在の視点から再評価する機会が広がっている。また、SNS 上のコメント機能やリツイート機能などを通じて、インターネット上での評価や反応も見られるようになってきている。では、こうしたネット空間において、歴代の総理大臣はどのように評価されているのだろうか。各首相に対する反応は一律なのか、それとも首相ごとに異なる特徴が見られるのか。本稿では、こうした疑問（Research Question）をもとに、過去の総理大臣に対するインターネット上の反応を分析することを目的とする。

本研究では、1980年代から2000年代前半にかけて在任した総理大臣のうち宇野宗佑を除く11名³、すなわち中曽根康弘、竹下登、海部俊樹、宮澤喜一、細川護熙、羽田孜、村山富市、橋本龍太郎、小渕恵三、森喜朗、小泉純一郎を対象とする。この期間は、自民党単独政権、非自民連立政権、自民・非自民の連立政権と、政権の枠組みが大きく変動した期間である。こうした背景も踏まえ、本稿では各首相に対するネット上の反応を比較・分析し、そこから見える政治的評価の傾向や特徴を明らかにすることを目指す。

2. 先行研究と仮説

政治家のイメージ形成に関しては、フィクション作品が視聴者の現実政治への態度に影響を与える可能性が指摘されている。秦（2022）は、テレビドラマ『半沢直樹』の視聴者を対象とし、ドラマ内で登場する「悪い政治家像」が、現実の政治家に対する不信感に与える影響を検証した。結果、ドラマにおける腐敗した政治家像は現実の政治家への不信感をも高めることを明らかにした。一方で、こうした受け手の態度変化は、SNS の発達によりオンラインでも見られるようになってきている。実際、ユーザーが政治家に対して抱く好意・不信感・怒りなどについてコメントや投稿を行い、それらが拡散されることで「政治家像」が形成されるプロセスに言及している研究もある。瀧川ほか（2023）は、2020年1月から8月の間に投稿された Twitter 上の安倍首相に関する約 500 万件のツイートを対象にセンチメント分析を実施している。結果として、Twitter 上の発言の約 8 割がネガティブ（不支持）と分類され、従来の世論調査と比較して著しく否定的な傾向が確認され、Twitter 上の態度と世論調査の支持率との乖離が明らかにされた。

瀧川ほか（2023）の研究結果から、過去の歴代総理に対する当時の評価が、その後の報道や歴史の授業等から現在のネットユーザーにもある程度シェアされているとするならば、「悪い政治家」とイメージされている政治家であるほど現在でも否定的な傾向が確認されるはずである。したがって、本研究では「それぞれの政治家に対するネット上での反応は異なるのか」というリサーチクエスションに対し、「支持率が低い首相に対しては、毒性の高いコメントがより多くの反応を呼ぶ」という仮説を立てる。

³ 後述するように、宇野宗佑は対象とする映像再生リスト（TBS 歴代総理列伝）に含まれていないため、分析対象から省いている。

本研究では「毒性」という評価軸を用いることで、より具体的かつ定量的にコメントの特徴を検討する。支持率に関しては、歴代首相を在任中の支持率の平均から高支持、中間、低支持の3つのパターンに類型化する。中曽根内閣から小泉内閣までの支持率の一覧を表1に、支持率の平均が45%以上を高支持、30%以上45未満を中間、30%未満を低支持として分類したものを表2に示す⁴。そして、YouTube のコメント欄における「毒性」の強さとその反応（いいね数、リプライ数など）との関連を分析し、支持率のパターンによる違いを検証する。在任中の支持率が低かった首相は、その後も否定的なイメージが強いと仮定すると、ネット上でも批判的・攻撃的なコメントが多く寄せられ、それらの毒性の高いコメントが他のユーザーからの賛同（いいね）や拡散（リプライ）をより多く得る可能性が高いと考えられる。

さらに、分析対象を1990年代から2000年代前半にかけての歴代総理（海部俊樹から小泉純一郎まで）に限定し、政権交代や連立の変遷といった政治的背景の違いがネット上での反応や政治家へのイメージに与える影響についても考察する。

表 1:歴代内閣の支持率

内閣	平均値	最高値	最低値
中曽根康弘(第 71,72,73 代)	40.7	51.8	24.7
竹下登(第 74 代)	30.3	41.5	4.4
海部俊樹(第 76,77 代)	43.1	54.2	27.5
宮澤喜一(第 78 代)	25.6	47.6	10.3
細川護熙(第 79 代)	60.6	67.4	49.7
羽田孜(第 80 代)	43.6	46.2	40.9
村山富市(第 81 代)	35.2	41.9	28.1
橋本龍太郎(代 82,83 代)	38.1	46.8	23.1
小渕恵三(第 84 代)	33.2	47.6	19.4
森嘉朗(第 85 代)	19.8	33.3	9.6
小泉純一郎(第 86 代)	47.2	78.4	34

（前田（2007）より筆者作成）

表 2:支持率の分類

	内閣	支持率
高支持	細川護熙	60.6
	小泉純一郎	47.2
中間	羽田孜	43.6
	海部俊樹	43.1
	中曽根康弘	40.7
	橋本龍太郎	38.1
	村山富市	35.2
	小渕恵三	33.2
	竹下登	30.3
低支持	宮澤喜一	25.6
	森嘉朗	19.8

（前田（2007）より筆者作成）

3. 分析手法・データ

（1）コメント毒性の重回帰分析

本研究では、YouTube 上の歴代首相に関する動画コメントを対象に、「毒性(TOXICITY)」に影響を与える要因を検討する。具体的には、Google 社の提供する YouTube Data API⁵を用いて YouTube 動画コメントを取得し、Perspective API⁶でコメントの毒性を計算した。ここでいう「毒性 (TOXICITY)」は、「人々がディスカッションから離れる可能性の高い、粗暴、無礼、または理不尽なコメント」と定義されており、さらに「深刻な有害性

⁴ 表1表2ともに第75代総理・宇野宗佑を含めているが、後述する理由から分析対象からは外している。

⁵ YouTube Data API. <https://developers.google.com/youtube/v3/docs?hl=ja>(最終閲覧日2025年5月22日)

⁶ Perspective API. <https://perspectiveapi.com/> (最終閲覧日2025年5月22日)

(SEVERE_TOXICITY)」は、「悪意に満ちた、非常に攻撃的または無礼なコメントであり、人々の参加意欲や考え方の共有を妨げる可能性がある」とされる⁷。

分析対象は、TBS が作成した YouTube の再生リスト「歴代総理列伝」に含まれる動画へのコメントである⁸。再生リストには中曽根から小泉までの動画しか含まれていないため(宇野を除く)、対象を中曽根から小泉までに限定した。小泉以後の首相を対象としていないが、他のソースを加えることは比較の観点から好ましくないと判断し、この「歴代総理列伝」動画リストのみを用いている。取得したコメント、リプライ、いいね数は2025年1月30日時点のものである。絵文字のみのコメントについては、毒性をスコアで示すことができないため削除した。

また、毒性スコアに影響を与える要因として、「リプライ数」、「いいね数」、「深刻な有害性 (SEVERE_TOXICITY)」に着目し、重回帰分析を行う。Salehabadi et al. (2022) は、Twitter における 85,000 件以上の会話を分析し、毒性の高い発言が含まれる会話は、より多くのユーザーを巻き込み、より長く続くことを明らかにしている。毒性の高いコメントは、しばしば感情的・挑発的であり、それが反論や賛同といったさらなる反応を引き起こすと考えられる。そのため、本研究では、ユーザーの反応を示す指標として「リプライ数」と「いいね数」を説明変数に採用した。また、「深刻な有害性」が高いコメントには、より強い憎悪表現や侮辱が含まれることが多く、結果としてより高い毒性スコアに結び付くと考えられる。さらに、支持率の低い首相に関する動画では、より否定的・攻撃的な感情が表出しやすくと予想される。したがって、そうした首相に対するコメントでは、毒性が高いほど「いいね」や「リプライ」が多く集まり、「深刻な有害性」もより強く関与すると考えられる。

(2) ワードクラウド

コメント毒性に加え、具体的コメントや頻出単語を把握するため、上記と同じ YouTube コメントよりデータを取得し、ワードクラウドを作成して内容をグラフィック化する。その上で、それぞれの総理大臣に対する世論の評価を記述的に分析する。

4. 分析結果

TBS が作成した YouTube の再生リスト「歴代総理列伝」に含まれている中曽根から小泉までの動画について、2025年1月30日時点で再生回数の多い順に並べたものを表3に、コメント数の多い順に並べたものを表4に示す。表3と表4からわかるように、再生回数とコメント数の相関は高く、統計的にも相関係数は0.92と有意である ($p=4.6e-05$)。一方で、支持率と再生回数の相関係数は0.09、支持率とコメント数の相関係数は-0.05であり、支持率とこれら再生回数やコメント数はほぼ相関がない。つまり、動画の注目度は支持率とは関係が

⁷ Perspective | Developers. <https://support.perspectiveapi.com/s/about-the-api-model-cards?language=ja>(最終閲覧日2025年5月22日)

⁸ TBS NEWS DIG Powered by JNN.(2021年)『歴代総理列伝』YouTube.
<https://youtube.com/playlist?list=PLhoNlZaJqDLb9ea4jet2levLfdiiYn4h&si=VQqX8FyVvkBVd6sv> (最終閲覧日2025年5月22日)

ない。以下では、再生回数やコメント数といった単純な注目度ではなく。コメントの内容（毒性）に着目して分析を行う。

表 3 動画再生回数一覧

順位	氏名	再生回数
1	橋本龍太郎（第 82,83 代）	1,358,352
2	小泉純一郎（第 87,88,89 代）	910,092
3	竹下登（第 74 代）	879,126
4	羽田孜（第 80 代）	697,953
5	細川護熙（第 79 代）	576,878
6	小渕恵三（第 84 代）	538,903
7	宮澤喜一（第 78 代）	518,492
8	森喜朗（第 85,86 代）	497,406
9	中曽根康弘（第 71,72,73 代）	491,977
10	村山富市（第 81 代）	488,307
11	海部俊樹（第 76,77 代）	409,480

表 4 コメント数一覧

順位	氏名	コメント数
1	橋本龍太郎（第 82,83 代）	1,558
2	小泉純一郎（第 87,88,89 代）	1,161
3	竹下登（第 74 代）	986
4	森喜朗（第 85,86 代）	778
5	村山富市（第 81 代）	736
6	細川護熙（第 79 代）	609
7	羽田孜（第 80 代）	594
8	小渕恵三（第 84 代）	547
9	宮澤喜一（第 78 代）	528
10	中曽根康弘（第 71,72,73 代）	383
11	海部俊樹（第 76,77 代）	296

（１）重回帰分析

中曽根康弘首相から小泉純一郎首相までのそれぞれの YouTube 動画について、コメント毒性を目的変数とした重回帰分析を行った。結果を表5に示す。

中曽根康弘首相についての YouTube 動画を対象とした回帰分析では（表5上段第1列）、「リプライ数」および「いいね数」はいずれも毒性との関係において統計的に有意な影響は見られなかった。特に、「いいね数」が毒性と負の係数を示しているものの、その効果は極めて小さく、有意ではないことから、単純に多くの支持を得たコメントに毒性がないとは言えない。竹下登首相から村山富市首相についても「リプライ数」および「いいね数」は有意な影響は確認されなかった。

橋本龍太郎首相（表5下段第1列）では「いいね数」が有意（ $p=0.00164$ ）であり、毒性が高いコメントほど「いいね」が多い傾向にあることが示された。高い支持率を誇った小泉純一郎首相（表5下段第4列）についても橋本首相と同じく「いいね数」が有意となっている。小泉純一郎首相は郵政民営化など大規模な改革に着手していたため、政治的な議論が活発化し、過激、辛辣な意見が共感を生んだ可能性がある。一方、小渕恵三首相（表5下段第2列）をみると「いいね数」ではなく、「リプライ数」が有意となっており、毒性の高いコメントほど議論を呼んだことが伺える。

しかし、対象首相の中で最低の支持率である森喜朗首相（表5下段第3列）については、橋本首相や小泉首相と同じく「いいね数」が有意であったものの、係数がマイナスの値（ -0.004151 ）となっており、毒性が高いコメントほど「いいね」がついていない。IT 革命や「神の国」発言に対するコメントが多く、それらコメントの毒性は低いことから、森喜朗首相を支持する視聴者がそれらのコメントに共感し「いいね数」が増えたことが考えられる。

このように、毒性との関連において「リプライ数」「いいね数」が統一的な傾向を示さなかった点は、視聴者の関心の在り方やコメント空間の性質が動画ごとに異なることを示唆している。

「深刻な有害性」はほぼすべての分析モデルで一貫して有意な正の影響を示しており、これは攻撃的または極端な内容を含むコメントが、通常の毒性スコアにも強く影響する決定的要因であることを示している。また、YouTube 上におけるユーザー行動として、「攻撃的だが共感を呼ぶ」意見が一定の支持を集めている可能性も否定できない。ただし、細川護熙首相（表5中段1列）のみ、「深刻な有害性」とコメント毒性との関係が他の首相と異なっている。他の首相のケースでは、「深刻な有害性」の t 値が10を超えているが、細川首相のケースでは t 値は半分以下の3.482を示している。このことは、細川首相の動画に対するコメントにおいては、毒性と攻撃性の比例度が他の首相ほどではないこと、つまり毒性はあるが攻撃性はそこまで高くないという特徴を示している。対象とした首相の中で唯一平均支持率が60%を超えていることから、高い支持率を誇った首相に対する事後評価は他の首相とは異なるという傾向が読みとれる。

以上、仮説「支持率が低い首相に対しては、毒性の高いコメントがより多くの反応を呼ぶ」について、一概に支持できるとは言えないが、細川首相のケースから、支持率が高い首相に対しては、毒性の高いコメントとコメントの攻撃性の関係が他の首相のケースよりは低いことが示された。つまり、「支持率が高い首相に対しては、毒性の高いコメントがより多くの反応を呼ぶとは言えない」という意味で、仮説は支持されていることになる。ただし、一部の首相（橋本首相・小泉首相）では「いいね」と毒性が正の関連を持つことが示され、逆に森首相のように低支持でも「いいね」が毒性と負の相関になるケースがあることが明らかになった。また、小渕首相の例からは、毒性が高いコメントは「いいね」より「リプライ」で反応する可能性が示された。このことから、支持率の高低だけでなく、各首相の個別の政治的文脈や支持層の特性が、ネット上の評価の毒性と反応パターンに影響している可能性がある。

表5 YouTube 動画のコメント毒性の回帰分析

中曽根				竹下				海部				宮澤								
係数	se	t 値	p 値	係数	se	t 値	p 値	係数	se	t 値	p 値	係数	se	t 値	p 値					
切片	0.111	0.013	8.751	8.31E-14	***	0.069	0.013	5.130	1.55E-06	***	0.051	0.010	5.040	2.22E-06	***					
リブライ数	0.023	0.028	0.796	0.428	0.011	0.026	0.440	0.661	0.006	0.014	0.409	0.683	-0.015	0.020	-0.754	0.452				
いいね数	0.000	0.000	-0.788	0.433	0.004	0.005	0.939	0.350	0.000	0.000	-1.143	0.256	-0.001	0.001	-0.953	0.343				
深刻な有害性	1.085	0.075	14.387	< 2e-16	***	1.667	0.132	12.620	< 2e-16	***	6.125	0.598	10.243	< 2e-16	***	1.273	0.098	13.012	< 2e-16	***
補正 R2	0.689			0.644				0.518				0.638								
N	383			986				296				528								

細川				羽田				村山								
係数	se	t 値	p 値	係数	se	t 値	p 値	係数	se	t 値	p 値					
切片	0.143	0.018	8.037	2.83E-12	***	0.090	0.012	7.457	4.77E-11	***	0.100	0.012	8.578	1.93E-13	***	
リブライ数	-0.009	0.018	-0.541	0.590	0.002	0.013	0.155	0.877	-0.011	0.011	-0.940	0.350	-0.011	0.011	-1.354	0.179
いいね数	0.000	0.001	-0.447	0.656	0.000	0.000	-0.564	0.574	-0.001	0.001	-1.354	0.179	-0.001	0.001	-1.354	0.179
深刻な有害性	0.000	0.000	3.482	0.001	***	1.857	0.179	10.362	< 2e-16	***	1.226	0.085	14.355	< 2e-16	***	
補正 R2	0.090			0.542				0.703								
N	609			594				736								

橋本				小渕				森				小泉								
係数	se	t 値	p 値	係数	se	t 値	p 値	係数	se	t 値	p 値	係数	se	t 値	p 値					
切片	0.074	0.016	4.676	9.54E-06	***	0.057	0.009	6.601	2.33E-09	***	0.140	0.015	9.218	1.11E-14	***					
リブライ数	-0.003	0.014	-0.228	0.820	0.019	0.009	2.112	0.037	*	0.034	0.018	1.871	0.065	-0.027	0.020	-1.342	0.183			
いいね数	0.015	0.005	3.241	0.002	**	-0.001	0.000	-1.828	0.071		-0.004	0.002	-2.607	0.011	*	0.009	0.004	2.569	0.012	*
深刻な有害性	1.371	0.100	13.662	< 2e-16	***	2.260	0.199	11.366	< 2e-16	***	1.304	0.107	12.174	< 2e-16	***	1.134	0.074	15.413	< 2e-16	***
補正 R2	0.667			0.578				0.621				0.712								
N	1558			547				778				1161								

重回帰分析と同じく、TBS が作成した YouTube の再生リスト「歴代総理列伝」に含まれる動画を対象とし、コメントの中で頻繁に使用される単語を視覚的に表すためにワードクラウドを作成した。作成にあたっては Python を使用し、CSV ファイルから日本語のコメントを読み込み、janome を使って抽出したコメントの文章を形態素解析した。抽出した品詞は名詞、動詞、形容詞で、「こと」「それ」「です」など意味の薄い単語は除外し、文字数は3文字以上の単語のみを抽出した。中曽根康弘首相から小泉純一郎首相まで、それぞれ図1から図11に示す。



図1 中曽根首相動画コメントのワードクラウド



図2 竹下首相動画コメントのワードクラウド



図3 海部首相動画コメントのワードクラウド



図4 宮澤首相動画コメントのワードクラウド



図5 細川首相動画コメントのワードクラウド



図6 羽田首相動画コメントのワードクラウド

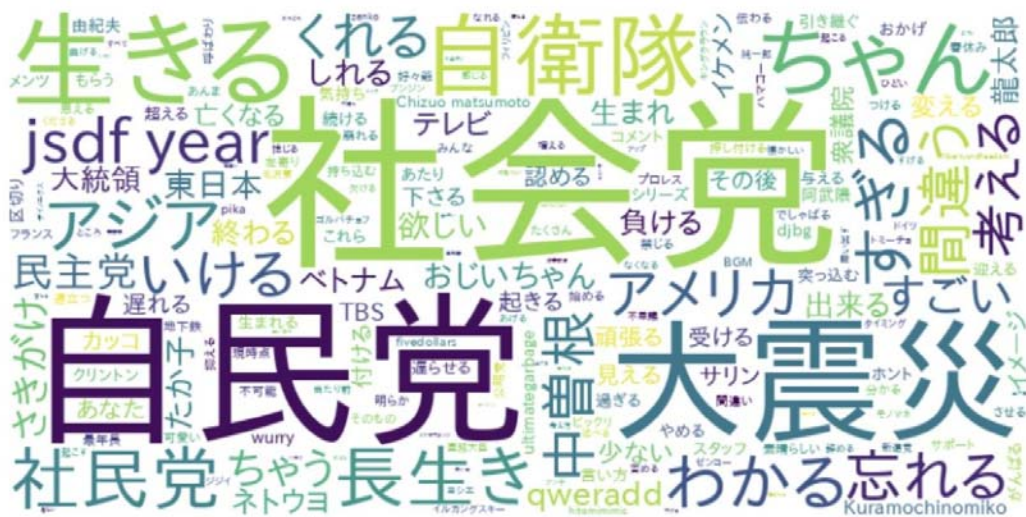
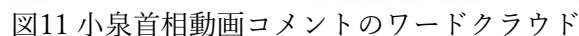
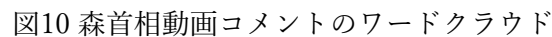
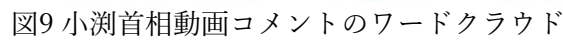


図7 村山首相動画コメントのワードクラウド



図8 橋本首相動画コメントのワードクラウド



中曽根康弘首相の動画に対するコメントのワードクラウド(図1)では「中曽根」「生まれ」「イメージ」「年寄り」などが目立ち、特定の人物や世代に関連する話題が多いことが分かる。また「長生き」「倒れる」など、首相が長寿であることにに関して関心が高いことも読み取れる。さらに「龍太郎」「慎太郎」といった他の政治家の名前や、「NTT」「リクルート」などの語も見られ、彼の政権時代の政策や経済事件への言及も多い。「バブル」「アメリカ」「レーガン」などからは、1980年代の国際関係や経済状況との関係性もうかがえる。全体として、中曽根氏は長寿の政治家であると同時に、経済改革や時代の象徴的存在として多面的に記憶されている。

竹下登首相の動画に対するコメントのワードクラウド(図2)では、タレントで孫にあたる「DAIGO」の文字が大きく表示されており、その関係性に注目と親近感があることがわかる。また、ポスト中曽根であることから、「中曽根」の文字も目立っており、政策の比較がなされていると推測できる。一方で、「リクルート」事件への関与から、不祥事の印象を持たれているとも考えられる。しかし、「亡くなる」とのコメントも目立ち、訃報が視聴を促した可能性も考えられる。加えて、「経世会」「裏切る」「受け継ぐ」などの語からは、政界内での人間関係や派閥抗争に関心が寄せられていることもうかがえる。また、「欲しい」「面白い」「すごい」といった感情語が見られ、竹下氏が単なる政治家ではなく、親族やメディアを通じた記憶の中で柔らかに語られている存在であることが示されている。

海部俊樹首相の動画に対するコメントのワードクラウド(図3)では特に「海部」「総理」「政治」など政治家・首相としての立場が強調されている。また「自民党」「安倍」「竹下」など同時代、または関係のあった自民党内の他の政治家の名前が出ている。そのため、他の政治家との比較や関係性について関心が高いと思われる。さらに「ない」「残念」「印象」「欲しい」などの語も目立ち、海部氏に対する評価がやや控えめで、存在感や指導力に疑問を持つ意見も多かったと推測される。「解散」「改革」「新しい」などの言葉からは、政治の転換期に首相を務めたことや、期待と現実のギャップに対する世論の反応もうかがえる。全体として、海部氏は穏健で誠実な印象を持たれつつも、他の政治家と比較されながら評価される存在であったことが読み取れる。

宮澤喜一首相の動画に対するコメントのワードクラウド(図4)では、「ハマコー」の文字が大々的に表示されている。動画に「ハマコー」の愛称で知られる浜田幸一が自民党の改革推進派議員と揉み合う印象的なシーンが含まれていることから、多くの人が「ハマコー」を含むコメントを残したと考えられる。また、「不信任」「自民党」などの文字について、宮澤は55年体制下の自民党単独政権時代の最後の首相であったため、その退陣に注目が集まったためだと思われる。一方で、「おじいちゃん」や「イケメン」、「頑張る」などのポジティブなワードも存在感があり、肯定的な意見と宮澤を象徴する出来事でコメントの多くを占めていることがわかる。

細川護熙首相の動画に対するコメントのワードクラウド(図5)では、細川が首相を辞任後、都知事選に出馬したことから「都知事」などのワードが出たと考えられる。また、「由紀夫」や「龍太郎」など鳩山元首相や橋本元首相の名前も見られ、コメントの中で比較されている可能性がある。さらに、文字化けも散見され、おそらく多用された絵文字があったこ

とが想起される。一方で、中国語やベトナム語も見られ、海外視聴者の関心の高さも伺える。

羽田孜首相の動画に対するコメントのワードクラウド（図6）では、「自民党」「新進党」など政党名が多く、「サリン」「コロナ」など社会問題に関する語も目立つ。「懐かしい」「間違い」「すぎる」などの表現が含まれており、過去の出来事に対する評価や議論が多いことが推察される。

村山富市首相の動画に対するコメントのワードクラウド（図7）では「自民党」「社民党」「震災」「自衛隊」など、政治や災害に関連する語が多く見られる。「長生き」「忘れる」「考える」など、社会的な議論を反映した語も含まれており、時事的な話題が中心であることが推察される。特に「震災」「自衛隊」の語は、阪神・淡路大震災への初動対応や自衛隊出動の遅れが注目されていたことを示している。また「社会党」から自民党との連立に至った経緯や、「アジア」「アメリカ」といった語からは、村山談話や戦後補償といった外交姿勢への関心もうかがえる。さらに「おじいちゃん」「面白い」など親しみやすい語も見られ、政治的評価と同時に温厚な人物像としての印象も残されていることがわかる。

橋本龍太郎首相の動画に対するコメントのワードクラウド（図8）では「バブル」「デフレ」「GDP」は、橋本の掲げた経済政策が話題になっていると連想される。10年に渡る緊縮財政は長期的なデフレや深刻な就職氷河期を招いたことが「こいつ」などの批判的な表現を用いたコメントに繋がっていると思われる。一方で、アメリカへの強気な姿勢や日本経済を立て直す政策は国民からの人気に繋がり、「龍太郎」や「イケメン」、「可愛い」などの肯定的なコメントも見られる。また、中国人記者との交際が報道され、「ハニトラ」（ハニートラップ）の印象も根強いと言える。

小渕恵三首相の動画に対するコメントのワードクラウド（図9）では「亡くなる」「おじさん」が目立つ。ポジティブな表現とネガティブな表現が混在しており、文脈によって解釈が異なる可能性がある。また、「倒れる」「長生き」など首相の生死にまつわる言葉も含まれている。小渕恵三は脳卒中で倒れ急死したため、関心が高いと思われる。加えて、「くれる」「優しい」「すごい」などの言葉からは、温厚で親しみやすい人物像がうかがえる。一方で「決まる」「変わる」「続ける」などの語は、政権移行や政策継承に対する注目を反映している。「ブッチホン」や「ドリル」などの独自の政治スタイルを示す語も含まれており、小渕氏のユニークな手法が印象に残っていることもわかる。全体として、突然の死と人柄の両面で記憶されている首相であることが読み取れる。

森喜朗首相の動画に対するコメントのワードクラウド（図10）では全体的に、文字の大きさが揃っており、それぞれの語が一定の数散見されたことがわかる。また、退陣のきっかけとなったえひめ丸事件に関連して「ゴルフ」や、森の「日本は天皇中心の『神の国』である」との発言から「天皇陛下」「日本人」「我が国」などの愛国的なワードも見られる。さらに、「オリンピック」「ラグビー」といった語は、首相退任後の活動やスポーツとの関わりを示している。一方、「おかしい」「わかる」「考える」など、発言への賛否や違和感を含む反応も見られ、評価が分かれている様子がうかがえる。

小泉純一郎首相の動画に対するコメントのワードクラウド（図11）では「純一郎」との大きな文字から、溢れんばかりのカリスマ性で就任直後は約80%の支持率を誇るなど、好感度

の高さが伺える⁹。他にも「面白い」、「すごい」、「楽しい」などポジティブなワードが目立つ。一方で、「アメリカ」、「ブッシュ」、「北朝鮮」などの文字もあり、外交問題に対する取り組みや功績が小泉を印象付けていると言える。さらに、「変わる」「ぶち壊す」「流れる」などの語は、彼の改革志向や構造改革のメッセージが強く国民に印象づけられていたことを示す。「わかる」「考える」といった語からは、小泉の発言が共感や理解を呼んでいたことも読み取れ、彼の政治スタイルが広く浸透していたことが明らかである。

(3) 小括

コメント毒性の重回帰分析とワードクラウドの2つのアプローチを組み合わせることで、歴代首相に対するネット空間での評価が多面的に可視化された。以下、仮説「支持率が低い首相に対しては、毒性の高いコメントがより多くの反応を呼ぶ」を軸に特徴的なケースを例示する。

まず、仮説に沿う例として、細川護熙首相の例から、支持率が高い首相に対しては毒性の高いコメントがより多くの反応を呼ぶとは言えないことが示された。また細川首相の動画コメントのワードクラウドにあがる単語は多岐・多言語にわたることから、支持率の高さや国際的注目度によって毒性拡散が比較的抑制されているケースであると考えられる。

仮説に反し、毒性が必ずしも話題化や共感を生まないというケースとして森喜朗首相があてはまる。森首相は本研究で取り上げた11人の首相の中で最低の平均支持率であるが、森首相の動画に関するコメントは、コメント毒性が高いほど「いいね」が有意に少ない傾向を示した。これは、攻撃的な発言が共感を得にくく、むしろ反発やスルーを招く可能性を示唆する。一方、ワードクラウドでは特定の語が突出せず、全体的に均一な大きさで表示された。これは、森首相に関する話題が単一の争点に集中せず、多様な事柄が幅広く言及されていることを反映していると考えられる。両者を併せると、森首相に関するコメントは、特定のテーマでの盛り上がりよりも断片的・多様な意見が散発する構造を持ち、それが毒性発言の拡散抑制にもつながっている可能性がある。

情緒的な話題が他者の共感や反応を誘発するケースとして小渕恵三首相が挙げられる。小渕首相の支持率は11人中8位と中程度であるが、任期途中で急逝したことが動画コメントに大きく影響しており、ワードクラウドでは「亡くなる」や「倒れる」など死に関する言葉が多く見られた。また、小渕首相の動画は、コメント毒性の重回帰分析において「毒性の高さ」と「リプライ数」に正の相関が見られた。他の首相と比較しても政治的なコメントより「人」への視点が強いコメントが多く、感情的な語彙は対話（リプライ）を生み出しやすいという傾向がある。

5. 結論

本稿では仮説「支持率が低い首相に対しては、毒性の高いコメントがより多くの反応を呼ぶ」に対し、動画のコメントの毒性とそれに関する反応を分析した。支持率が高い首相である細川首相のケースでは「深刻な有害性」の影響が他の首相より突出して弱かったことから、仮説は一部支持されたといえる。一方、橋本、森、小泉の動画では「いいね数」に、小渕の動画では

⁹ 朝日新聞 (2001年4月30日). 「小泉内閣支持、最高78% 改革路線に期待感」
<http://www.asahi.com/special/shijiritsu/TKY200302280007.html> (最終閲覧日2025年5月22日)

「リプライ数」に有意差が見られた。このことから、同じ毒性でも、ある首相では「リプライ数」や「いいね数」が多く、別の首相では反応が薄いなど、ネット上における政治家に対する反応傾向や、コメント内容に対する共感・反発が明らかになった。また、ワードクラウドによるコメントの可視化で、各首相に対するイメージや、主な関心トピックが明らかになった。しかし、このように反応傾向が異なる明確な理由は特定できなかった。政治家に対する評価の二極化や、特定の支持層による共感的な反応の可能性が考えられる。

また、本研究の限界点については3つ考えられる。1つ目に、YouTubeのコメントは世論の一部でしかないという点である。YouTube上のコメントに基づいて分析を行ったが、YouTubeにコメントを書くのは一部の積極的なユーザーであり、全体の世論を直接反映しているわけではない。2つ目に、アルゴリズムや誘導の影響である。コメントの表示順や動画のおすすめ機能によって、偏った意見が目立った可能性がある。この点については深い分析を行っていない。3つ目に、毒性スコアの文脈依存性である。自動的に判定された「毒性」は文脈を誤解することもあり、皮肉や冗談や政治風刺などの把握が難しく、必ずしも悪意があるとは限らない。

以上を踏まえると、政治家ごとの支持層の特徴や、コメント投稿の時間帯・ユーザー属性を加味した分析が必要である。また、特定の政治家に対する毒性の高いコメントへの違いは、ネット上における支持・反発の分断状況を示す一つの手がかりになりうるものの、世論をよりの確に反映するには、世論調査や他のSNSデータ、検索トレンドなどを組み合わせることが必要になる。

参考文献

- 瀧川裕貴・永吉希久子・呂沢宇・下窪拓也・渡辺誓司・中村美子 (2023). 「ソーシャルメディア言論分析の方法①：2020年1月から辞任までの安倍首相に対する Twitter 上の投稿分析を事例として～」『放送研究と調査』73(3): 70-85.
https://doi.org/10.24634/bunken.73.3_70
- 秦正樹 (2022). 「ドラマにおける「悪い政治家像」は現実政治にも投影されるか?: 「半沢直樹」を題材としたサーベイ実験より」『年報政治学2022』72(1): 166-188.
https://doi.org/10.7218/nenpouseijigaku.73.1_166
- 前田幸男 (2007). 「安倍政権気の支持率と政党支持率」『中央調査報』602.
<https://www.crs.or.jp/backno/old/No602/6021.htm>
- Salehabadi, Nazanin, Anne Groggel, Mohit Singhal, Sayak Saha Roy, and Shirin Nilizadeh. (2022) "User Engagement and the Toxicity of Tweets."
<https://doi.org/10.48550/arXiv.2211.03856>